

# キセキ便り 号外

## 今年度一発目の軌跡・奇跡（キセキ生）

昨年度紹介した2人のキセキ生に続き、今回また、総合学習塾キセキに通い、数か月を経て大きく成長した1人の生徒を保護者の皆様にご紹介しようと思います。

最高席次 103 番！ 一見驚くような数字ではありません。先月実施された、小祿中学校、金城中学校の1学期中間（前期）テストでは学年で1位、6位、7位、13位など、他の生徒が羨ましがらるような結果を残してくれた生徒がいます。でも、私が「確かな軌跡があり、奇跡を起こした生徒」の一人として取り上げる生徒は最高席次 103 番の小祿中学校2年生、T.N君になります。

昨年の夏、彼は彼のお兄ちゃんとともに『総合学習塾キセキ』へ一歩目を踏み出してくれました。最初の印象は、まだ小学生と変わらないようなあどけなさがあり、中学1年生とは思えない立ち振る舞いでした。兄弟同時の入塾でしたが、母親の方からは「お兄ちゃんよりも、弟の方が心配です」と言われたのを今でも覚えています。私は彼に「中学校に入ってから席次はどれくらいだったの？」と尋ねてみると、彼はきっぱり「248番」です。と答えてくれました。「248番」ということは、彼は後ろから2番目の順位ということになります。私がこの会話を通して彼に感じたことは、「勉強が苦手なんだ」と言うことよりも、彼には「素直さ」があり、自分の「現状」を受け止める「強さ」があるということでした。人間はだれでも、自分の納得のいかない結果に陥ったり、失敗したときには、後ろめたい気持ちが表われ、現実を隠そうとすることがあります。多くの新規入塾生の中にも、自分の成績（席次）の低さを面談で話すとき、苦笑いしながら私に伝えます。もしかしたら、家庭の中でも自分の成績や席次を隠そうとする生徒さんもいると思います。

ですが、彼にはそのようなことが一切なく、自分の「立ち位置」＝「スタートライン」を自分自身の中でしっかり受け止め、「他者」に対して「素直」に伝える能力があると私は感じました。

実際に夏期講習が始まり、授業で彼を見ていて気付いたことがありました。おそらく、小学校の頃に彼は勉強に怠慢であったのでしょう。だれよりも字を書くことが遅く、また、文字が読めないという「ハンデ」がありました。だが、彼にはその「ハンデ」を補うだけの「発言力」という強さがありました。どんな問題でも、どんなに的外れの答えであろうが、彼は私達講師に「発言する」ということだけは怠らず、積極的に授業に参加します。そんな中、彼にとって入塾後、一回目のテストが行われ、62人抜きの「186番」！彼は私たちに、はにかみながら「学校の先生に、T.N君が一番勉強ができるようになった」と報告してくれ

ました。

2ヶ月、3ヶ月と月日が流れ、彼も塾に通うことに慣れてきたころの日でした。彼は塾での宿題をやって来ず、担当の講師に嘘をつきその場を逃げようとしたことがあります。また、塾内のテストで不正行為を行い、何事もなかったかのように授業を受けたことがありました。彼の様子に違和感を覚えた私は直接彼を呼び出し話を聞いてみる決断をしました。

私：最近の自分の行動で、何か私に伝えることはないか？」

T.M君：「いや… 特に…」

私は、彼がとぼけていることに気づき、再度聞き返しました。

私：「自分の中で反省すべきところはないか？」

T.N君：「あっっ… 得にないと思います…」

私の中で、彼の持ち味である「素直さ」が失われかけていると感じたのと同時に、その「素直さ」をもう一度引き出すためにはどうすべきか一瞬考え、彼と話をつづけました。

私：「もう一度だけ聞く。自分の中で何か省みることはないか？」

「自分のことは自分が一瞥知っている。また、人は騙すことはできても、自分は騙せない。」

「素直になりなさい」

少し、間があり彼の口から次の一言が発せられました。

T.N君：「すいません。塾のテストでカンニングをしてしまいました。」

理由はともあれ、入塾当時に彼がもちあわせていた「素直さ」が欠け始めている時期でした。

私は、常に生徒に語りかけます。

「失敗してもいい。勉強ができなくても良い。ただ、自分自身に素直に生きなさい。」  
「自分自身に嘘をつくとは、必ず、自分の影が追いかけてくる。それからは逃げることはできない。」

彼はその日、私からの指示で授業を受けることなく、「頭を冷やして、今後そんなことをしない。という決意があれば、塾に戻ってきなさい」と伝えられ、翌日、「もう一度、キセキで頑張りたいです」といい、再出発しました。

再び授業が始まると、彼は一回りも、二回りも大きくなり、彼の「素直さ」と「発言力」

という武器を取りもどし積極的に授業に参加してくれました。そして今回、彼がとってきた理科の点数は94点。学年順位15位という半端ない数字です。入塾当初の彼を見て、この数字をだれが予想したでしょうか？現在の彼は、「学ぶことの楽しさ」を覚え、以前よりも授業に参加してくれます。私は物事の結果には常に理由があると思います。今回の彼の結果は、彼の最大の武器である「物おじしない素直さ」と、どんな場面においても自分自身の考えを伝える「発言力」によるものだと思います。大事なものは「能力」ではなく「動力」！そして、どのスタートラインに立っているかではなく、自分自身の現状を受け止め、歩みを止めず走り続けることだと思います。

また、私も彼から一つ学びました。彼の学問における「開花」がゆっくりであるように、根気強く、「素直」に「積極性」をもつことで、もっと多くの生徒の可能性を引き出せるのではないかと。植物にしても同じことが言えるのではないかと思います。同じ日に種を植え、同じだけの量の水を与えつづけても、花が「開花」する時期は一緒ではありません。そして、今後とも多くの生徒の可能性が「開花」できるよう、また「開花」している花をしおらせないように、「厳しさ」と「優しさ」の愛情を生徒へ注いでいこうと思います。長々とした文章になりましたが、目を通してもらったご父兄の皆様には感謝いたします。また、このような「右往左往しながらも、約10ヶ月間、自分と向き合い、小さな軌跡・奇跡を歩んだ少年」に拍手を贈って読み終えて頂けたら幸いです。

2018年6月14日 総合学習塾キセキ代表 与那覇